



みなさんの地域には、 自主防災組織はありますか？

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という「共助」の精神に基づき、自分たちの地域で自分たちでできる防災活動を行うために自主的に結成される組織です。

自主防災組織の活動

平時の活動

●防災知識の普及

防災マップの作製、防災講習会、地域のお祭りなどでの防災イベントの実施。

●防災資機材の整備

ハンマー、バール、大型ジャッキなどの作業道具、非常用食料品、防災資機材や備蓄品の管理など。

●要配慮者対策

要配慮者の把握・日ごろの見守り、担当者の確認。

●防災訓練の実施

避難所開設・運営訓練、避難誘導訓練、初期消火訓練、炊出し訓練など。

●防災巡視・防災点検

各家庭の防災用品の点検、防災倉庫の備品や消防水利の確認、ブロック塀や石垣、自動販売機など、倒れやすいものの確認。

災害時の活動

●避難所の開設・運営への協力

避難所の解錠・開設、避難所施設の状況確認、避難者誘導・受け入れ、避難者の居住場所と業務の割振りなど。

●初期消火活動

出火防災のための活動や消火器、消防水利の確保、バケツリレーなどによる初期消火活動など。

●情報の収集・伝達

自治体などと連絡を取り合い、災害に関する正しい情報を住民に伝達する。

●救出活動

負傷者や倒壊した家屋などの下敷きになった人たちの救出救助活動など。

●医療救護活動

負傷者の応急手当て、救護所への搬送など。

地域で話し合い、 地域ぐるみで支え合いましょう。



災害が発生したとき、その災害を乗り越えるためには、まずは「自分の命は自分で守り」、支援や救助が来るまで生き抜き、そして生活を再建することが大切です。

しかし、自分の力には限界があります。大規模な災害時には、行政の対応能力を超える被害が予想されます。災害によって一変する生活を支えるのは「地域」です。大規模災害時は行政（職員）も被災します。施設や事業所も被災します。そのようなとき、「地域の力」なくしては災害を乗り越えることはできません。平成7年の阪神・淡路大震災では、実際に救助された人のほとんどが、家族や近隣の人により救出されたといわれています。

いざというときに助け合うためには、日ごろからの声の掛け合い、地域への行事への参加などによる、近隣の人々との関係づくりが大切です。

大切なのは地域の繋がりで。

自助・共助・公助 = 7 : 2 : 1 (一般的に災害時の助けとなる割合)

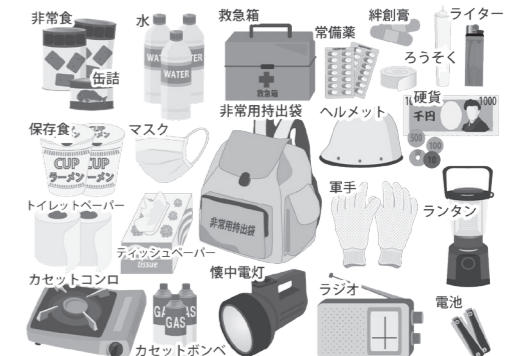
この三つの行動が、災害に対応する最も大切な基礎になります。それぞれの備えと連携で防災力を高めましょう。

自分の命や財産を自分で守ること

- 食料や飲料水の備蓄
- 非常持出品の準備
- 家具の固定、転倒・落下の防止
- 避難経路の確保
- 防災に関する知識・情報を身に付ける



7
自助



自分たちの住む地域を 自分たちで守ること

- 近所・地域での助け合い
- 自主防災組織の設置
- 避難所運営
- 高齢者・障害者・外国人などの支援



2
共助

1
公助

市や県など 公的機関による 救助や支援

- 市民への情報伝達
- 避難所・備蓄品の整備
- ライフライン施設や設備の復旧
- 消防・警察・自衛隊による救助活動



突然の災害時には、地域コミュニティが大きな力を発揮します

災害発生の初期活動から復旧・復興までの公的機関としての役割を果たします